

まずはここから始めよう！

ごみ削減

4Rの推進

● Refuse (リフーズ)：断る

不要なものは断り、ごみになりそうなものの受け取りはできるだけ拒否しましょう。

● Reduce (リデュース)：減らす

マイバッグを利用したり、包装の少ない商品や長期間使える商品を選んだりするなど、ごみを減らして環境への負担を減らしましょう。

● Reuse (リユース)：再利用

故障したものは修理したり、古着などの不用品はフリーマーケットやバザーを活用したりするなど、繰り返し使えるように再利用しましょう。

● Recycle (リサイクル)：再資源化

生ごみや刈った草などはコンポスト容器などを使用して、たい肥として再利用しましょう。また、市が収集している牛乳パックや空き瓶、古紙などの資源物は正しく分別して、有効に活用しましょう。



4月からプラスチック製品のごみ分別区分が変わりました！



今まで燃やせるごみだったプラスチック製品は、4月からプラスチック類（資源）に分別区分が変更されています。次の区分をよく確認し、よく洗って資源として再利用しましょう。

● 新たなプラスチック製品の分別区分

○ 台所用品 = おぼん、コップ、食品保存容器 等

○ 日用品 = バケツ、ちりとり、ハンガー、CD・DVD・ブルーレイディスク 等

○ 洗面用具 = 風呂いす・洗面器

○ 文房具 = 定規・下敷き・クリアファイル

※その他のプラスチック製品の品目については市ホームページでご確認ください。

● 収集回数 燃やせないごみは月1回、プラスチック類は月3回収。輝北地区・吾平地区は燃やせないごみ・プラスチック類の回収が月2回

※収集日は「ごみ収集カレンダー」をご確認ください。



近年、「SDGs」という言葉をよく耳にします。これは「持続可能な開発目標」という意味で、環境問題を始めたとして世界のあらゆる問題を解決するために設定されたものです。

私たちが何気なく生活している中でも、あらゆる場面でSDGsは関わっています。例えば、日常のごみ出しの場面。ごみの処理に関しては、各地区の町内会が管

マナーを守って きれいな鹿屋へ

理するごみステーションへ、決まった種類のごみを決まった曜日と時間に指定のごみ袋で出すルールです。

しかし、地区によってはルールを守らないごみ出しが問題となっています。決まった時間にごみを出さない場合、回収までに時間が空くことで悪臭が発生させたり、鳥獣に荒らされまちの美観が損なわれたりします。暮らしやすく美しい町を維持するためにも、ルールを守ったごみ出しをお願いします。

生ごみの減量のため 「3キリ運動」を実践

燃やせるごみを出す際に、生ごみの水分を切らずにそのまま袋に入れて出したり、分別できるプラスチックごみを一緒に出したりした経験はありませんか。

「市民1人1日当たりの家庭ごみ量」は令和4年度で606gとなっています。市では持続可能な循環型社会の実現を目指し、令和11年度までに市民1人1日当たりの家庭ごみ量を525g以下に減

らすことを目標に設定しています。目標達成のためにはプラスチック類や古紙類の分別の徹底のほか、食材の「食べキリ」・「使いキリ」・「水キリ」の「3キリ運動」の実践によって生ごみの排出量を削減する必要があります。これによりごみ出しの量と頻度を抑え、環境への配慮のほか、ごみの収集・処理費用の削減にもつながります。

次世代の子どもたちへ「ごみの少ない持続可能な社会」を残すために、まずは家庭からごみ削減の取り組みを始めてみましょう。



次世代にきれいな「かのや」を スマートな「ごみ」削減

日常で必ず出る「ごみ」。マナーを守らずにごみを出した場合、街の景観が損なわれたり、悪臭が発生したりして周辺の住民に迷惑を掛け、トラブルになることもあります。今回は、本市を美しく保つための、正しいごみ出しについて取り上げます。

市生活環境課 ☎0994-31-1115



「散乱しているのを見て、 人の役に立ちたいと思った」

新川町のごみステーションには、元気な挨拶とともにごみ袋を受け取り、ステーションに整然と並べる1人の男性がいます。

「ごみが荒れてる様子を見て、ちょっと人の役に立つことをやってみようという気持ちで始めたのがきっかけです。」と笑顔で語る福田孝義さんは朝6時から収集車が出る時間までごみステーションに立ちます。8年前から現在まで、清掃と管理を欠かしません。

「初めて利用する人にはカレンダーを渡して、ごみの出し方を教えています。ルールを守ってくれば、それでいいですから。ごみを気持ちよく出してもらえるように、体が丈夫なうちは頑張ろうと思っています。」



福田 孝義 さん(新川町)

現在73歳で、家具関係の仕事をしていた。趣味は釣りや畑仕事。孫が6人いて、孫の部活動の試合観戦が何よりも楽しみ。ごみを出す人と立ち話をするなど、人との会話が好きと語る。

令和5年度ごみ組成調査結果

組成調査とは、ごみステーションに排出される可燃ごみの内訳を調査する取り組みです。調査の結果、水分を含む生ごみの重量は約4割。燃焼する際のコストを抑えるという意味でも、生ごみの削減に重点的に取り組む必要があります。また、古紙類やプラスチック類の割合が高く、資源物としての認識が薄い傾向があることが分かっています。

